



"These elevators are the "entrance" of the hotel and may feel like before entering the main hall of a shrine. It is my hope that by first encountering these pieces of art, the hearts of all those who get on one of these elevators will be purified", he says, adding: "Andaz Tokyo Toranomom Hills is a wonderful hotel where people can encounter various kinds of art. It is a place where art can constantly come into contact with people and become a culminating point. It plays a crucial role."

**Tetsuya Nagata**, born in Osaka, has a master from the Tokyo University of the Arts (Tokyo Geidai University). He considers himself "not a traditional craftman but a contemporary artist" whose recurring themes include memory, polarity, time and space, water and beauty. His *wagashi zanmai* technique had been featured in Japanese museums, institutions and properties such as the Ozu Washi Gallery, the Toraya Gallery (Tokyo), the Nagano Prefectural Shinano Art Museum, the Chiba Prefectural Museum or the Kabukiza Theater. Tetsuya Nagata has collaborated with the Meiji Kinenkan (Constitution Memorial Hall) and was invited to create decorative votive plaques to celebrate the succession performance of kabuki actor Nakamura Kankuro VI. His works were also shown at Spiral (Tokyo) and in 2020 at Artglorieux gallery of Tokyo Ginza Six during the exhibition *Japanese Sweets Style*.

## 天に昇るエレベーター

トニー・チーがデザインしたエレベーターのうちの1基が、滑るようなスピードで上昇し、アンダーズ東京の51階に到着します。エレベーターの内部は、詩的にして現代的な美にあふれる、哲学的な幻想的な世界です。4基のエレベーターの壁には、精緻にして気品あふれるアート作品が展示されています。作者である和紙アーティストの永田哲也氏は、縁起のいい生き物とされる鯛や鯉、それに植物や花、木々をモチーフに「時間と空間を自由に駆け巡る」イメージを作品にした、と語ります。

生命力、精神、魂、智慧を感じさせる作品は、永田氏のオリジナルの手法である「和菓子三昧」で創られています。手漉きの和紙と、和菓子（飾り菓子）という2つの伝統的なアートの手法を組み合わせた手法です。楮を原料とし、絹のように滑らかな質感と光沢のある西の内紙（無形文化財）を使用しています。

作品は、和菓子用の木型で砂糖ではなく和紙を象って創られます。アンダーズ東京の作品の製作には、281点の木型が使われました。

柔らかな和紙の繊維はどんな型にもなじむため、さまざまなモチーフが豊かな質感と立体感のある生き生きとしたキャラクターとして立ち現れます。エレベーター内に展示されている「蠶螂の棲むところ」という作品は、生命の循環の営みを描いており、四季の花々が咲き乱れています。「下方に泳ぐ鯉、上方には跳ねる鯉がいます」。古い神話から着想を得て、水中と天空の極性を構図として制作した作品です。

「アンダーズのエレベーターはホテルの『エントランス』ですから、神社の本殿の中に足を踏み入れるような心地がするのではないかと思います。エレベーターに乗ったお客様が、アート作品に出会い、心が浄められるような気持ちになっていただけたら、と思います」と永田氏は語ります。「アンダーズ東京虎ノ門ヒルズは、さまざまなアート作品に出会える素晴らしいホテルです。アート作品との出会いが常に用意されている点で、際だっています。アート作品がこの上なく重要な役割を果たしています」

永田哲也は大阪生まれ、東京藝術大学大学院美術研究科構成デザイン修了。「私は伝統工芸の作家ではなく現代アーティスト」を自認し、記憶、極性、時空、水と美を繰り返すテーマとして制作を続けてきた。「和菓子三昧」と名付けた独自の手法による作品は、小津ギャラリー、虎屋ギャラリー、長野県信濃美術館、千葉県立美術館、歌舞伎座を始め、国内外の美術館や商業施設で展示されている。明治記念館での茶会や、六代目中村勘九郎襲名披露公演を祝う飾り絵馬制作でもコラボレーションを行った。スパイラルでも展示を行い、2020年には銀座SIXのオールグロリユーでも「和菓子三昧」と題した展示を行った。